

A close-up photograph of water cascading over a concrete dam. The water is turbulent and white with foam as it falls. The dam's surface is a dark, textured green. The text 'STI Horizon誌スキルアップセミナー' is overlaid in white on the upper right portion of the image.

STI Horizon誌スキルアップセミナー

研究者

国際大学GLOCOM主任研究員

理化学研究所未来戦略室客員研究員

横浜国立大学地球環境過程（理学学士）

東京大学大学院環境システム（工学修士）

官民連携コーディネーター

クールビズ／クールシェア（一般社団法人）

グリーンパワープロジェクト（NPO）

データ×災害（GLOCOM）

シングルマザー／ アートモデル

Ⓐ 突然踏み込んだ質問ですが、なぜシングルマザーになり、それをポジティブに公開することにしたのですか？

「自分で自分を信じたい」からです。
自分が運んだ道なのに、やっぱり後ろめたかったです。わざわざ言うことではない、将来子どもが大きくなった時に何か言われたら・・・とか考えたりしました。でもよく考えたら、それは、「シングルマザーという存在をよくないもの」と罰しているのは私自身だった、ということに気づいたんです。笑っちゃいました（笑）。
ある時ふっと覚悟ができて、「私が私を認めよう」と思って。そしたら言わずにはいれませんでした（笑）。
あとは、「同じように悩んでいる人がいたら、その人の光になりたい。」というのもありました。シングルマザーだって、楽しんでいい。いや、シングルマザーとか関係ない、ただの一人の女性として、輝いていい。いろんなことを体験して、エンジョイしている、それがたまたまシングルマザーだったよ、そういうロールモデルになりたかったんだと思います。



産官学での多様な経験と視点を活かし、新しい社会のあり方を模索・研究しています。
実践的研究として、人と人との対話の場作りを行っています。

膨大な情報量と多様な価値観が行きかう変化の激しい現代においては、一人ひとりが対象を「自分ごと化」し、その人らしさをいかに発揮できるかがとても重要であると考えています。
また、組織や社会にとっても、個をそうした状態へ導き、多様性を強みへと活かすことが、成功へのキーであると考えています。



インタビューについて（モデルとしての経験から）

- コンテンツ事例
- インタビュー記事(outcome)tips
- インタビューそのもの(場の作り方) tips

伝える・共有するという事について（コーディネーターの経験から）

- 事例
- 立場の異なる人に伝えるということ
- 今後の社会形成にむけて

インタビューについて（モデルとしての経験から）

- コンテンツ事例
- インタビュー記事(outcome)tips
- インタビューそのもの(場の作り方) tips

Output (コンテンツ)

テキスト

- メインメッセージ (タイトル)
- キーメッセージ (段落)
- その人自身の言葉

写真

- 誰か (人)
- 何か (研究内容)
- 雰囲気 (場)

Interview（そのためのやり方）

テキスト

- ひな形から逆引きしフォーマット化

↑正しく情報を得る（キーメッセージ）

- インタビュアー自身の視点で対話

- インタビュアーから心を開く

↑相手の言葉を引き出す（メインメッセージ、その人自身の言葉）

写真

- 物を置かない（シンプル）
- 光を意識（写真は光を撮る）
- あとはアプリでけっこういける

伝える・共有することについて（コーディネーターの経験から）

- 事例
- 立場の異なる人に伝えるということ
- 今後の社会形成にむけて

● Green Power プロジェクト

- FIT(固定価格買取制度)の政府広報兼ビジネス創出
- 経済産業省主導
- NPO、企業、大学、約30自治体、約30地方銀行ほか多数と連携
- 官民連携での再生可能エネルギーの普及促進



● ローカルビジネススクール 「まちエネ大学」

- 再エネ事業者の人材育成事業
- 事業者(個人、団体、中小企業)と行政、地域金融機関が一緒になって再エネ事業を考え、学ぶ仕組み
- 平成25年(2013)開校、5年間実施
- 全国28か所、延べ850名超受講生



引用：まちエネ大学

- 過去5年間で約120の事業プランを創出
- 約10%が事業化

地域課題型

- 木質資源によるお茶・シイタケ栽培熱需要転換 (浜松)
- 梅干し調味廃液によるメタンガス発電 (和歌山)
- 食品残さバイオマス発電@茅ヶ崎市 (横浜)

地域コミュニティ型

- 石神エコヴィレッジ・プロジェクト (和歌山)
- 自伐など「多業的なりわい」づくりと自給圏構想 (米原)
- 村の宝を掘り起こせ！ひと肌脱がせ隊王滝モデル (長野)

都市・まちづくり型

- まちづくり×エネルギーシフト@世田谷 (東京)
- 市民農園でソーラーシェアリングによる市民協働発電所@宝塚市 (滋賀)
- 市民発電所の立ち上げ@町田 (横浜)

観光創造型

- びわこソーラーシップ発電 (滋賀)
- 里山の未来@浜松市 (東京)
- 美山里エネプロジェクト (京都)

オフグリッド自給型

- エネルギー自給・蓄電池パーソナルモビリティデザイン事業 (北海道)
- おとなのオフグリッドクラブ推進事業 (山陰)
- 復興の街灯プロジェクト (仙台)

「再エネ」をキーにつながるセクター連携



「翻訳家」

日本語⇔英語

公務員⇔住民

企業⇔消費者

科学者⇔国民

「（コミュニケーターという同じ）翻訳家」

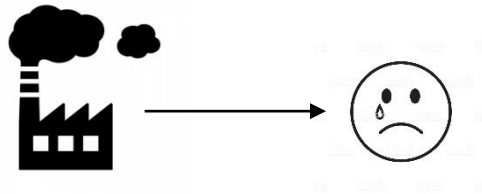
小学校5年生に（でも）伝わる言葉

社会的課題とその構造

⇒利便化、多様化・複雑化、成熟化した社会の「チリツモ」現象

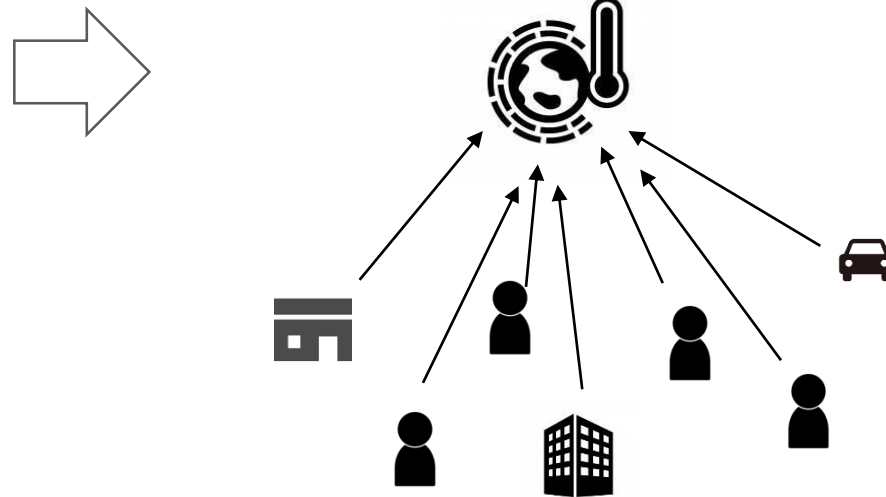
公害モデル（一部・単一ベクトル）

- ✓ 場所は特定
- ✓ 原因は明確
- ✓ 対策しやすい（私が悪かった）



温暖化モデル（エリア・複数ベクトル）

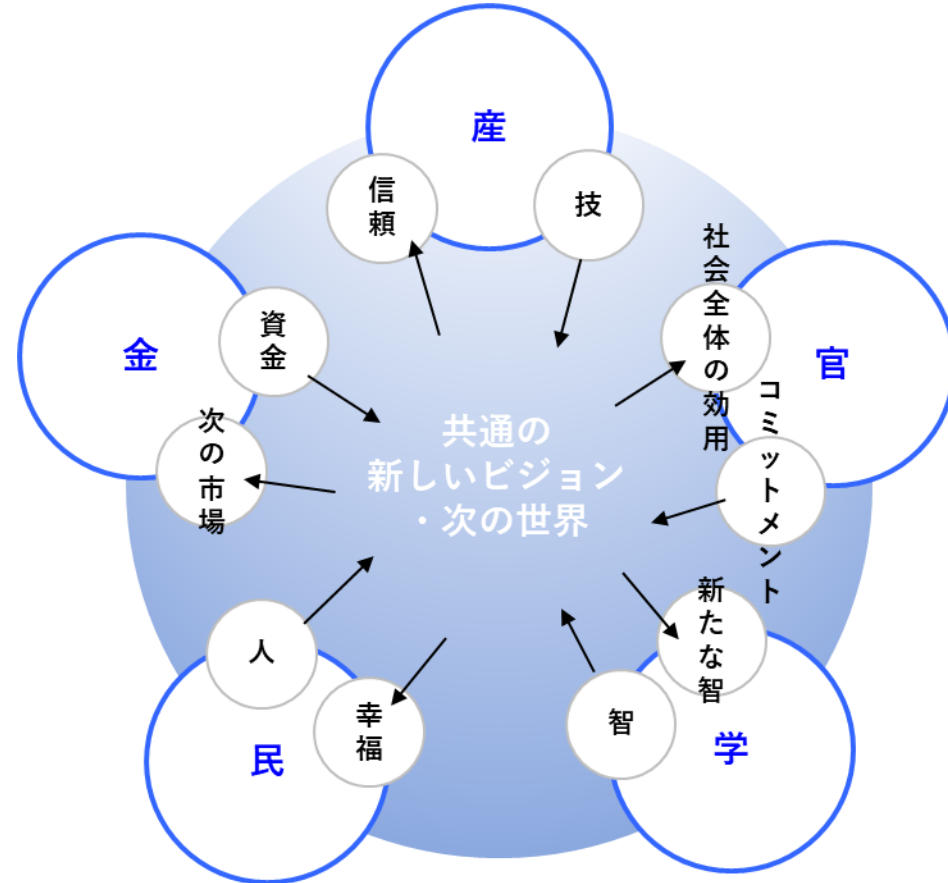
- ✓ 場所の点在化
- ✓ 原因の多様化
- ✓ 対策しにくい（総論OK・私はやらない）



・・・例えば以下が同じような構造になっている。
「ゴミ問題」「エネルギー問題」「高齢化社会（福祉問題）」「多様性社会（働き方、子育て問題）」等

ますます‘越境’と‘対話’が必要になっていく

ステークホルダーの越境、個々が行動を起こす共創、市場創出としての共進化



- ・提供するものはそれぞれ異なる
- ・得られる便益もそれぞれ異なる
- ・新しい世界をともに作り上げる
(次のステージに移行する=進化)

CSV (Creating shared value)

「社会ニーズ (社会課題の解決) に対応することで経済的価値と社会的価値をともに創造する」

Porter, M. and M. Kramer, 2011, "Creating Shared Value: Redefining Capitalism and the Role of the Corporation in Society", Harvard Business Review, January and February 2011.



広報・表現 ≡ 社会との対話